

令和7年度シラバス（家庭）

学番 中等1 新潟県立村上中等教育学校

教科(科目)	家庭(家庭基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	4学年
使用教科書	Survive!! 高等学校家庭基礎（教育図書）				
副教材等	Survive!! 高等学校家庭基礎 準拠ノート（教育図書）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①幅広い教養を身につけ、他者と協働しながら、粘り強く挑戦し続け、地域社会や国際社会に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育成します。 ②主体的、自律的な人間として、行動力にあふれ、自他を大切にする思いやりの心とリーダーシップを兼ね備えた人材を育成します。 ③主体的に学ぶ力を身に付け、社会における課題等に気づき、創意工夫、試行錯誤を重ね、その解決のために行動できる人材を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、発達段階に応じて1・2年を「基礎の充実」、3・4年を「発展・挑戦」、5・6年を「自律・深化」に分け、学習内容の確かな定着、主体的で対話的な学習態度の育成を図りながら次の教育活動を展開します～ ①総合的な応用力、学問への探究心を育むとともに、知識や技能を活用するための思考力、判断力、表現力を育成する課題解決型の授業を実施します。 ②他者とコミュニケーションを取りながら、地域社会や我が国の魅力を国内外に発信できる知識・技能等を高めるための学習活動を実施します。 ③身に付けた力を社会で発揮するため、地域貢献活動、社会体験活動への参加を推進します。 ④自己肯定感を高め、他者を思いやり、多様性を理解する態度等を育成するため、系統的な特別活動や学年を超えた多様な体験活動を実施します。

2 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3 指導の重点

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

・生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	・生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。
---	--	---

5 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業への取り組み（授業態度、学習活動への参加状況）、提出物の内容、作品、定期考査などから総合的に評価する。	授業への取り組み（授業態度、学習活動への参加状況）、提出物の内容、作品、定期考査などから総合的に評価する。	授業への取り組み（授業態度、学習活動への参加状況）、提出物の内容、作品、定期考査などから総合的に評価する。

6 学習計画

月	単元名	授業 時数	教材名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	消費生活・環境	10	家庭科を学ぶにあたって 成年年齢の引き下げ	学習の意義や内容・方法・評価を理解する。学校家庭クラブとホームプロジェクトの意義や進め方について理解する。 18歳で「大人」になるという自覚を持つ。 成年（大人）と未成年の違いについて理解し、大人への準備期間をどう過ごすかを考える。	4	定期考査 提出物、ワーク ノートの取組 授業への取組
			契約と消費者トラブル	一人で契約する時の注意点や心構えについて理解する。 消費者トラブルと、消費者保護の仕組みについて理解する。	1	
			消費者の権利と責任	消費者の権利と責任について理解する。	1	
			消費者の意思決定	消費者市民社会の実現に向けて、自立した消費者としてどのように行動したらよいかを考える。 さまざまな決済方法について知り、それぞれのメリット・デメリットや自分に合った利用方法について考える。	1	
5			生活費と家計	家計の特徴について理解する。	1	
			将来の経済計画	生涯を見通した経済計画の重要性について理解する。	1	
			これからの消費生活	自分の消費行動が社会に与える影響について理解し、持続可能な社会のためにどう行動したらよいか考える。	1	
6	生活設計	11	青年期を生きる	人の一生を生涯発達の見点で捉え、生涯を見通し、青年期をどのように生きるか考える。 各ライフステージの特徴と課題を理解する。	3	定期考査 提出物、ワーク ノートの取組 授業への取組
			青年期を生きる	人の一生を生涯発達の見点で捉え、生涯を見通し、青年期をどのように生きるか考える。 各ライフステージの特徴と課題を理解する。	2	
			家庭生活の成り立ち	家庭生活を支える職業労働と家事労働の特徴を理解する。 男女が協力して家庭をつくることの意義を理解する。 家族関係の特徴を理解し、よりよいあり方について考える。	2	
			家族と法律	家庭生活を支える基本的な法律について理解する。 現代の家族問題と、解決のための社会的な仕組みについて理解する。	2	

	7	子どもの保育		生活設計	家庭基礎の学習を生かし、将来の生活に向かって目標を立て、自分らしい生活設計について考える。	2	定期考査 提出物、ワーク ノートの取組 授業への取組
			8	子どもの発達	子どもの心身の発達の特徴について理解する。 乳幼児期が人の一生において重要な時期であることを理解する。 子どもの発達における遊びの意義について理解する。	3	
				子どもの生活・大人の役割	子どもの生活習慣・食事・健康と安全の重要性を理解する。子どもとの適切なかわり方について工夫する。 親の役割や子どもを生み育てることの意義について理解する。 子育てを通じて、親自身も人間的に成長することを理解する。	3	
				子育て環境、子育て支援	現代の子どもを取り巻く環境の問題について理解する。 社会全体で子育てを支援し、子育ての環境整備を行うことの重要性を理解する。 子どもの権利や福祉について理解する。	2	
	9	高齢期の生活	6	高齢期を理解する	人生の一時期として高齢期を捉え、自分の将来像としての高齢期について考える。 高齢者を取り巻く社会の課題について理解する。 高齢期の心身の特徴について理解する。	2	定期考査 提出物、ワーク ノートの取組 授業への取組
				高齢者の生活を支える仕組み	高齢者の生活について知り、社会的な支援のあり方について考える。	2	
				地域で支える高齢社会	高齢者を支える基本的な制度や仕組みについて理解する。 高齢者を支える地域の役割について考える。	2	
	10	食生活	18	人と食生活	食事と健康とのかかわりや、人の一生における食事の役割について理解する。 日本の食文化を知り、食生活を創造する主体であることを認識する。	3	定期考査 提出物、ワーク ノートの取組 授業への取組 献立作成、調理 実習への取組
				ライフスタイルと住まい	ライフステージに応じた適切な住まいについて理解する。	3	
	11			食品と栄養素	栄養素の種類や機能、おもな食品の特徴について理解する。	3	
				食品の選択・保存、安全な取り扱い	食品の適切な選択・保存方法について理解する。 食品の衛生と安全について理解する。	3	
				献立作成	日常生活の中で目的に合った食品を選び、取り扱うための知識や技能を身に付ける。 各ライフステージの栄養にかかわる課題を理解する。 ライフステージごとのおもな食事の特徴について理解する。	2	
	12			調理の基礎	各調理法の特徴を理解し、安全で衛生的、かつ、環境に配慮した効率的な調理技術を身に付ける。 料理の盛り付けや配膳、食事のマナーの基本を理解する。	2	
				これからの食生活 ホームプロジェクトの発表	現代の食生活の問題や課題について理解する。 持続可能な食生活、安全で健康な食生活について考える。 夏休みの課題を発表する。	2	
				人と住まい	人と住まいとのかかわりや、住まいのおもな機能について理解する。	2	定期考査

	1	住生活	8	ライフスタイルと住まい	ライフステージに応じた適切な住まいについて理解する。	2	提出物、ワーク ノートの取組 授業への取組 被覆実習への取組
				安全な住まい	安全で快適な住まいの条件について科学的に理解する。	2	
				衛生的な住まい	自分の住生活を点検し、安全で快適な住生活のための対策を具体的に考え、工夫する。	1	
				人と衣服	人間の生活と衣服のかかわり、衣服のおもな機能について理解する。	1	
	2	衣生活	8	衣服計画・衣服の表示	ライフステージや各場面に適した衣服、衣服計画の重要性について理解する。 衣服の表示について理解し、日常生活の中での活用について考える。	2	
				衣服の成り立ち、衣服素材の性能と着心地	衣服の素材（繊維、糸、布）の種類や特徴について理解する。	2	
				衣服の構成	衣服素材の性能・着心地や構成について理解する。	2	
				衣服の手入れ・管理	衣服の手入れや管理の必要性やその方法について、科学的に理解する。	1	
				これからの衣生活	衣服の3R（リデュース・リユース・リサイクル）の重要性を理解し、持続可能な衣生活について考える。 資源としての衣服の循環を意識し、着なくなった衣服の適切な活用方法について考える。	1	
	3	共生社会	4	ともに生き、支え合う社会	共生社会の重要性について理解する。 共生社会の実現のために、社会の一員として何ができるかを考え、工夫する。	4	提出物、ワーク ノートの取組 授業への取組

計 73 時間（48 分授業）

6 課題・提出物等

授業で制作した物、指示があった物は必ず提出してください。

7 担当者からの一言

家庭基礎をとおして、将来の社会生活に必要な知識を身につけましょう。
(担当：細井 幹子)